

土佐くろしお鉄道阿佐線

土佐くろしお鉄道阿佐線（愛称：ごめん・なはり線）は、高知県東部の南国市と奈半利町の間 42.7km を 21 駅で結ぶ路線で、第三セクター土佐くろしお鉄道株式会社によって運行されています。

阿佐線の歴史は大正 11 年にまでさかのぼります。大正 11 年に四国循環鉄道構想のもと、阿佐線は改正鉄道敷設法に基づく予定線「高知県後免ヨリ安芸、徳島県日和佐ヲ経テ古庄附近ニ至ル鉄道」に組み入れられていましたが、その後進展がありませんでした。戦後、昭和 32 年に国鉄阿佐線後免～牟岐間が調査線となり、昭和 34 年に工事線へと昇格し、日本鉄道建設公団が国鉄阿佐西線として安芸～田野間を着工したのが昭和 40 年でした。この時、後免町～安芸間には、土佐電気鉄道（昭和 5 年開通当時は高知鉄道）の安芸線が営業していました。しかし、昭和 40 年代半ばになると、貨物輸送の廃止やモータリゼーションによる旅客収入の減少などにより安芸線の赤字が拡大し続けたため、土佐電気鉄道は安芸線の軌道用地を国鉄に売却し、安芸線は昭和 49 年に廃止されました。

昭和 50 年に日本鉄道建設公団は廃線跡地を流用して後免～安芸間の高架橋の工事などに着手しましたが、今度は国鉄の財政悪化が顕著になり、日本国有鉄道経営再建促進特別措置法（国鉄再建法）の施行により阿佐線の工事は昭和 56 年に凍結を余儀なくされました。この時点で既に高架橋や盛土、トンネルを含めて 18.9km（全長の約 44%）の路盤工事が終了していましたが、開通の見通しが立たない状況となってしまいました。

鉄道開通を望む沿線の声が高まる中、昭和 61 年に高知県を母体に 23 市町村、2 金融機関、15 企業団体が第三セクターの土佐くろしお鉄道株式会社が設立されました。土佐くろしお鉄道は昭和 63 年に後免～奈半利間の鉄道事業免許を取得し、7 年ぶりに工事が再開されました。ごめん・なはり線は着工から敷設までに長時間を要しましたが、平成 14 年開催のよさこい国体に間に合うように工事が急ピッチで進められ、平成 14 年 7 月に開業しました。開業当日には奈半利駅で出発式が行われるなど、沿線の各地で鉄道開通を祝う催しが行われ、多くの人々で賑わいました。

ごめん・なはり線では高知県出身の漫画家やなせたかしさんデザインのイメージキャラクターが各駅に設定されており、駅のオブジェや案内標識に用いられているほか、キャラクターの着ぐるみが作られ沿線地域のイベントを盛り上げています。また、ごめん・なはり線は JR 高知駅まで直通乗り入れすることで、通勤・通学などに加えて、観光の面でも県東部地域の活性化に貢献しています。

<参考文献：高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」1998 年、八十八年史編纂委員会編「土佐電鉄八十八年史」1991 年、奈半利町史編纂委員会編「奈半利町史続編」2016 年など>

